

吉田方中学校の ESD 活動

＜活動の概要＞

- ・ 本校は、「母なる豊川」を活動テーマとして、ESDを地域の自然を愛する心と捉え、ESDの実践を通して地域の自然の大切さやその自然を維持する力の育成を目標とした。
- ・ 本校は、海拔1m地帯にあり、大規模な地震が起こった時は液状化現象や津波が心配されることから、ESDの実践を通じて、防災・減災を心がける力の育成も目標とした。

・ 活動の実際

① 母なる豊川にかかわる活動

カヌー体験活動は、平成2年度から実施しており、本校の伝統行事の一つとなっている。令和2年度から第2学年での実施に変更した。当日までの準備・活動は以下のとおりである。

- パドル講習会…ライフジャケットの着用・パドリングの方法
- 水難事故防止講習会…水難事故の実態とその回避方法
- 救命救急講習(不慮の事故への対策)
- プール練習会…プールで実際にカヌーに乗船
- 豊川清掃…乗降場所・トイレ等の清掃

このカヌー体験で豊川に足を踏み入れ、豊川の川面を漕ぎ進む。間近な川のおい、風、水温、そして時間とともに変わる潮の干満や流れ等、生徒は豊川の自然環境を肌で体感する。今年は、天候にも恵まれ、穏やかな陽ざしのもと、豊川の自然を満喫できた。

以前は、保護者の協力を仰ぐ合同行事であり、地域に根づいた活動であったが、ここ数年はコロナ禍の影響で、その形を変えて実施している。約30年以上続いているため、学校の先輩・後輩だけでなく、親子で共通の話題となる行事に育ってきた。しかしながら、地域産業や働き方の変化により、船舶協力者には多大なご負担をかけているという側面もある。時代の変化同様、地域や社会も変化していくため、持続することの難しさと大切さの二つの面を感じさせてくれる行事である。



② 防災・減災にかかわる活動 (全校生徒)

本校は、海拔1m地帯にあり、マグニチュードの大きな地震が起こった際には、揺れによる被害だけでなく、校区の液状化現象や津波などの災害も懸念されている。

東日本大震災を期に、学校危機管理マニュアル、学校安全マニュアル等を見直し、運動場への避難だけでなく、津波を想定した建物内の避難訓練を行っている。これからも、実際の被害や状況を想定した避難訓練になるよう、内容の見直しをしていきたい。

防災まちづくりモデル校区を市の防災危機管理課より指定を受けて、幼保小や地域と連携して、地域の安全に関する学習会(講演会)や校区防災訓練、防災マップを作成し、継続的に取り組んでいく予定である。

